

東シナ海の雲

宮之浦岳・開聞岳登頂記

その・3

山本勝己

大展望の九州最高峰を歩く

第3日目 5月1日(土) 晴れ

起床 3:30/5:00～第一展望台5:23～第二展望台5:46～平石岩屋6:30/6:49
～焼野三叉路 7:20/7:30～永田岳山頂 8:12/8:26～焼野三叉路 9:05/9:18～
宮之浦岳9:42/10:19～栗生岳 10:30～翁岳分岐 10:46～投石岩屋 11:40～投石
湿原 11:47～黒味岳分岐 12:08～花之江河12:20/12:49 ～石塚小屋13:28 ～
テン場 15:10 (泊)

- CL・アルコール隆徳 (52) 久しぶりにイイ山に登った。サイコーだ。
譚・公爵(講釈)元男 (62) 九州の最高峰、天気が良くて大満足。
繻・シーラーカンス勝己(31) 天気がよくていい気分でした。
藤・縄文杉八千代 (61) 登った！バンザイ！
SL・ビッグホーン秀子 (50) ヤマビルが一匹だけで良かった。『ホッ！』
鱒・日の出の博子 (50) ヒルに会わなくて良かった。
鱒・カメレオン依代 (52) バテバテだったけれど、よく歩いたと思う。
鱒・ウルル歌子 (55) 登って大感激！思わずウルルした。

新高塚小屋を出発して宮之浦歩道を歩く。尾根の瘤を越えていき、ひと登りで第一展望台、ほどなく第二展望台と続いていく。天気が良く、翁岳とその右側に宮之浦岳が見える。高度を上げるにつれ植生が変わっていくようだ。尾根から大きな杉やヒメシャラの類は無くなり、代わってアセビやシャクナゲが多くなった。朝日を浴びて輝く盛りのアセビの花が、重そうにビッシリついていた。

稜線上から坊主岩といわれる岩が見えます。のっぺりした大きな岩で、その向こうは深い谷が、尾根の間に急峻に切れ込んでいる。目の前が開けてくると、ヤクザサといわれるササが一面に広がっており、登山道はその中を進んでいて気持ち良い。

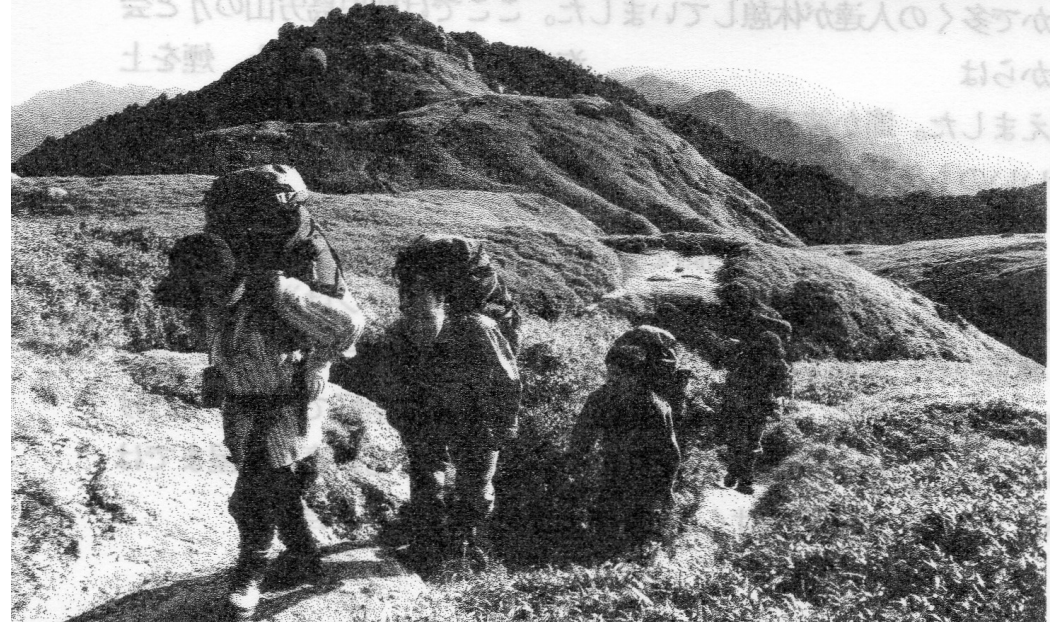
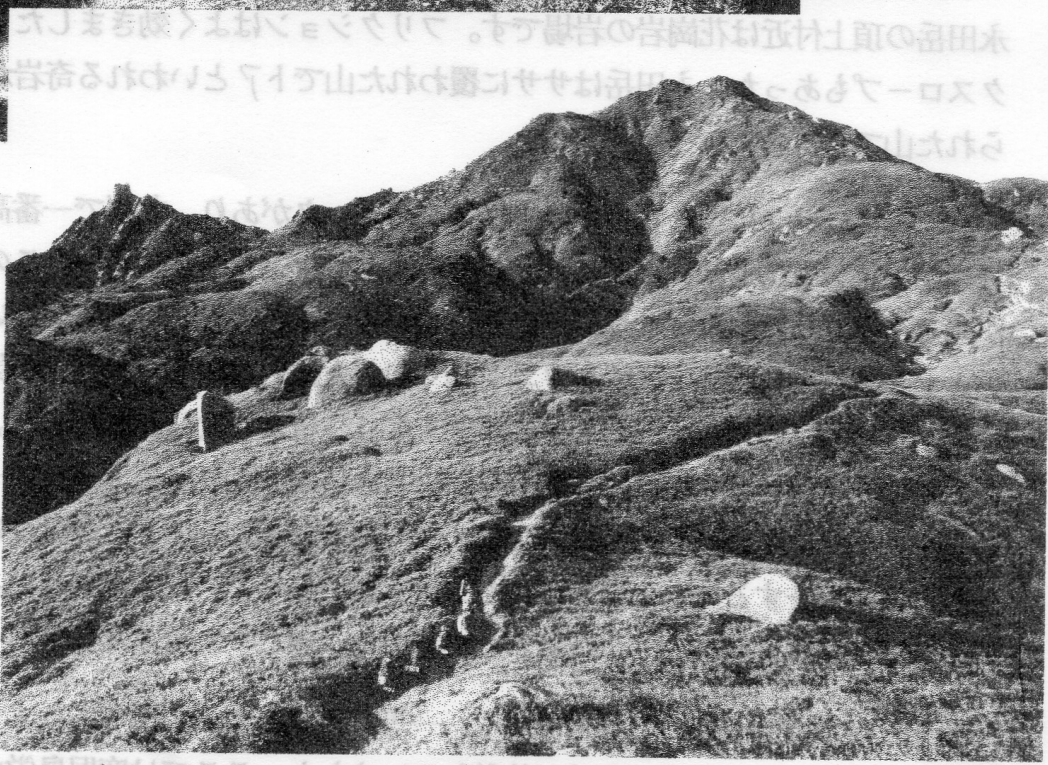
風避けにもなりそう。平石展望台はその名のとおり、大きな平たい石がおかれ、平石岩屋とも言われるようで、雨風が酷い時にその大きな岩陰に隠れるようだ。此処からの宮之浦岳はとて大きく見え素晴らしかった。休憩を眺めにとりつつ写真撮影をして展望を満喫した。朝早く出発した為か、我々グループだけで展望を独占できた。【岩と岩の細い隙間をチムニーに見立て、岩登りの遊びをする。なかには身体がつかえて登れず悪戦苦闘。足の運び、膝使い等々、笑いの渦が広がった。】

永田岳は九州で2番目に高い山。永田岳へは焼野三叉路にザックをデポし、サブザックに荷物を移してピストンした。50cm位の背丈があるヤクザサがちょっと煩い。永田岳の頂上付近は花崗岩の岩場です。フリクションはよく効きましたし、フィックスロープもあった。永田岳はササに覆われた山でトアといわれる奇岩が散りばめられた山でした。

宮之浦岳はササに覆われた山の上に2つのピークがあり、九州で一番高い山です。【途中の狭い登山道は、両側にササが覆いかぶさり足元がみずらい。この辺は、雨が降るとヤマヒルがウジャウジャ出ると聞いている。CLが『天気の良い時は出ないよ』と言っていたが、クニクニ動く虫が大嫌いな加トーは足元が気になって仕方がない。この頃から河合の体調が悪くなり、皆より大分遅れだした。時々立ち止まって吐き気を催す河合に、加トーが付き添いゆっくり登る。『わアー、ヒル！ヒル！』ササに覆われた道の真ん中で、《一匹のヒル》を加トーが見つけた。ヒル一匹に大騒ぎをする加トーに、河合も気持ち悪いなんていってられない。その声で背中を押されるようにして一気に頂上へ着いた。雨だったら大変な事だった。】

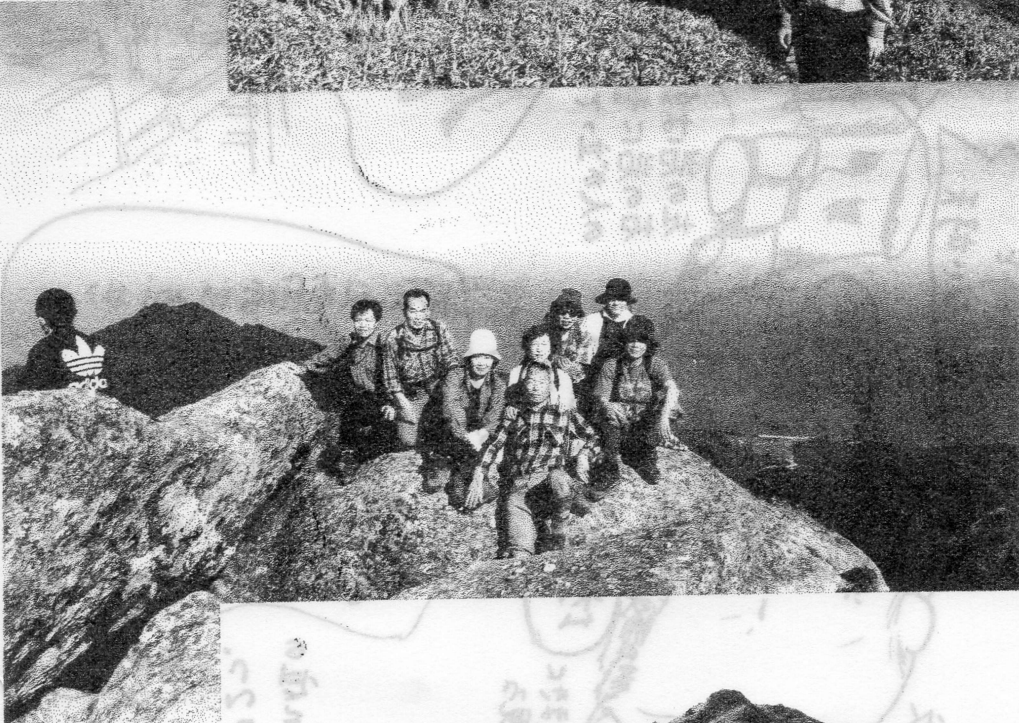
頂上は双耳峰で西峰の方がやや高く、一等三角点のある山頂であります。天気も良く非常に賑やかで多くの人達が休憩していました。ここでは鹿児島労山の方と会いました。ここからは 海の向こうには種子島と、煙を上げる硫黄島が見えました。遙か彼方には開聞岳らしき富士山のような山影が……。こんなに天気もいいのも珍しいそうです。

栗生岳を通り過ぎ、翁岳、安房岳は西側を巻いて投石平と続く。平らな岩が沢山ありとても展望がいい所。黒味岳は東側を巻く。黒味岳のピストンは道があるようだ。【途中で、軽装の若い女性2人組みと出会う。行ける所まで行きたい。と言っていたが、背中の荷物は少なく、腰の前に荷物を抱え、そんな恰好で何処まで行けるというのだろうか。テン泊ではなさそうだし、小屋泊まりでも新高塚小屋まではかなりの距離がある。CLが『山を甘くみているな』とポツリと一言。】



(上) 展望台で記念撮影
 (中) 展望台から宮之浦安に向う
 (下) 宮之浦の登り

永田岳
宮之浦岳
永良部島



永田岳
宮之浦岳
永良部島

(上) 永田岳とバ
ックに

(中) 永田岳頂上
に、後に
永田港と口
永良部島が
見える

(下) 永田岳から見て
宮之浦岳



新海の向うに南園岳が見えた

宮之浦岳

屋久島の中央にどっか
とそびえる九川の
最高峰はヤクザザにおおわれ
女性的。見回せば海。開闢岳が見え
た運のよいレイホー組!

日の出の博子の 絵日記

5/1 とても
梅雨時と
思えない好天

公岳

永田岳

永田岳は
4cmの霜柱・氷が張った岩を踏み
山肌をほる水は20cmもあるツラウ
がギラリ! 2番目の高さを誇る山。

サクサク!

ツルリン!

キリ! 油断大敵

左の岩は鉄人28号みたい
右の岩に登れるらしい。2-3人
の人が立っていた。

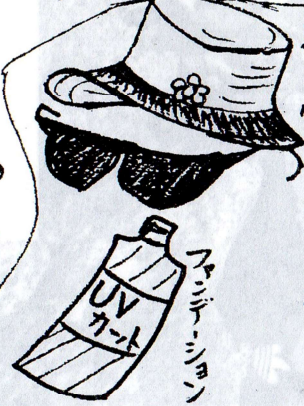
坊主岩 どうして
こも丸いの?
不思議です
その大きさにびっくり!

遠まきに見る

これは巨大な卵かおにきりか?

またあんな
丸い岩。
高さ15m位の
巨大卵2つ。

本日必需品三点セット



ヤマビル!!
君がいなくなったから
最高の屋久島だったよ。

←永田岳に
出るという



苔むした岩にキリサキイガ
がきれいだった。疲れた
体で水汲みを下りた所
テトは静かなコルで
今日の日が終わる

花之江河の湿原は高層湿原が美しい場所で、宮之浦歩道、栗生歩道、安房歩道の各登山道が交差しており、植生の保護から木道が設置されています。黒光したコケと清浄な水が美しい。ここで休憩をとる。心が安らぐ場所である。ミズゴケが積もって、水中から盛り上がってくるので高層湿原というそう。北側に見える黒味岳はシャクナゲが群生しており、時期がくればシャクナゲの花が素晴らしいそう。この辺りには、白い白骨樹といわれる木がある。枯れているように見えるが、僅かに葉をつけ生きている。これは樹皮が剥がれて真っ白になったスギだそう。台風等で樹皮をはぎ取られて生じたという。湿原の中央には「一品宝珠大権現」を祀る祠があった。

此処から安房歩道へ向かう。花之江河は湿原から流れる河となって、ミズゴケの姿のまま流れ出ているような感じでとてもきれい。【調子の悪い河合の荷物を分散する。CLを先頭に河合・加トー・2番隊は来生・歌子・高岡・山本・大根田と続く。原生林が生い茂る樹林帯の中を、アップダウンを繰り返しながらひたすら歩く。水場では水を補給し、ぬかるんだ田んぼを渡る頃には2番隊と大分差が開いてきた。再び河合の息が上がってきた。歩くのもやっとである。CLはテン場を探す為一人で先を急ぎ、少し広いコルで地ならしをして待っていた。

斜面を少し下ったチョロチョロ水を時間をかけてタンクに溜め、テントを張ろうとする頃、高岡と歌子が到着。更に遅れて来生・山本、大根田が到着。皆が集合した所で、男はテント張り、河合・来生は食担当、高岡・加トーはトイレの設置と役割分担を決める。トイレの穴堀は木の根がはびこっていて巧く作る事が出来なかったが、それでも何とか恰好だけはつけた。

夕闇が迫る頃、楽しい夕餉が始まった。とにかく荷を軽くし最小限に止めたので品数は少なかったが、食担当が目一杯の御馳走をしてくれた。鳥の照り焼き、赤飯ラーメン、ウインナー2本とペロリと平らげた。野外での食事はうまい。不思議と飛び交う虫はいなかった。ビールを飲み、山談義に花を咲かせ、すっかり夜のとばりがおりた頃、それぞれのテントに戻り寝始めた。

ところが、ウトウトし始めた途端、隣のテントから『歌を歌おうよ』と来生の大きな声。そしてでっかい声で歌い始めたのである。『嘘でしょう。止めてよ』とは寝たい人達ばかりの、CL・加トー・歌子・河合である。気のすむまで一人で歌って皆を悩ませた来生は、実は翌朝も3時からピーク、パークと皆の安眠妨害をした。山行ニックネームはここからついたものである】とにかく疲れた。

※ 文中〔 〕は加トーが追加しました

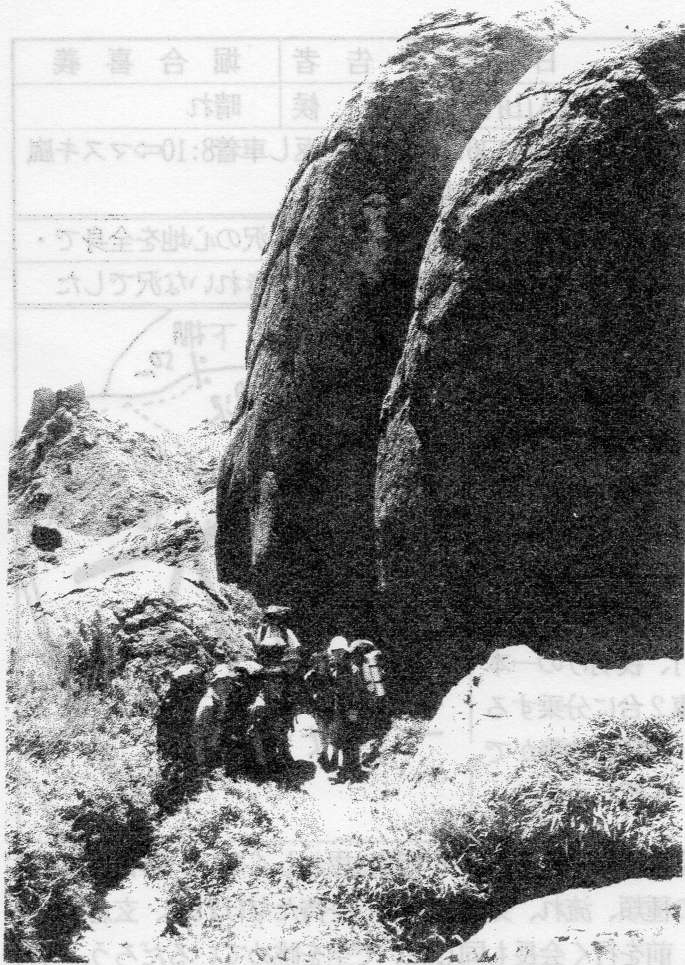
(追記・後藤隆徳)

1. 新高塚小屋のトイレは小さく朝の混雑時など長蛇の列。周りのシャブナギ林の中に汲み取ってあった。
2. テント場も狭いので小屋周辺の林の中に汲み取ってあった。
3. 展望台から口永良部島が大きく見えた。
4. 展望台から宮之浦岬に向う皆の軍真が女人9月号に掲載された。
5. 宮之浦岬に登る途中 ツララとベルグウ(岩に張りついていた水)が見えた。
6. 永田岬から永田港が良く見えた。これは年間でも2~3回のこと。
7. 鹿見島登山とはその後 探検紙交流を始めた。
8. 宮之浦を下ると淀川口から日帰りの登山者に汲み取った。軽装の人も多い。
9. 花之江河は日本最南端の高層温泉。
10. テント場は当初荒川近くと予定したが全くなかった。結果的にはここで良かった。
11. 淀川口ルートのおかげでここのルートは静かですはらししい。
12. 夕刻何人かが急ぎ足で通過。庫くと明日一番の船に間に合うためとのこと。宿泊の用意もないようだった(ザック小ま)



5周年記念山行・国内S隊 宮之浦岬頂上バンザイ

日 月 年	日 月 年
山 行 名	山 行 名
コ ー ス	コ ー ス
加 入 者	加 入 者
加 入 日	加 入 日
加 入 時	加 入 時
加 入 所	加 入 所
加 入 者	加 入 者
加 入 日	加 入 日
加 入 時	加 入 時
加 入 所	加 入 所



(上) トア(岩塔)と呼ば
れる巨石が道所
にある。岩の中結
晶は長る

(下) 宮之浦をさす下
公爵とシーラカ
ンス

